

## 眼 科

### 研修指導者名

坂本 泰二      中尾 久美子      園田 祥三      山切 啓太  
内野 英輔      山下 高明      喜井 裕哉      田中 実      ほか

### メッセージ

鹿児島大学眼科後期研修プログラムは、南九州地区の眼科診療を担い、眼科に関する諸問題を解決する方法を研究・開発する能力をもった人材を養成することを目的とします。眼科医は生涯にわたって学習する必要があるため、単に研修期間内の達成度の向上を目指すのではなく、生涯学習してゆく姿勢・方法を身につけることが最終的目標です。

具体的には、眼科臨床医として不可欠な基礎知識、臨床知識、検査・診療技術、顕微鏡手術技術を習得します。本プログラムは4年間で構成されており、本プログラム終了後には、日本眼科学会認定眼科専門医試験の受験資格を取得できます。

初期の2年間のうち、最低1年間は鹿児島大学病院で医員としての研修を義務付けます。

大学病院の研修では指導スタッフのもとで基本知識（病態、検査、診断、治療）と基本手技（外来処置、手術介助）を習得します。病棟では、主治医として患者を受け持つことで、眼科診療の技術のみならず、良好な患者 - 医師関係の構築方法を習得します。外来では、副主治医として診療にあたります。その際は、角膜、白内障、ぶどう膜、神経、外科的網膜、内科的網膜、小児、腫瘍に分かれている専門外来を、定期的に回ることで眼科疾患全般の知識を習得します。

後期研修のうち、一定期間は関連病院で研修を行います。具体的な研修病院や期間は、本人の希望、志向を勘案します。関連病院研修の目的は、大学病院では経験する機会が少ない眼科一般的疾患の診療、網膜光凝固、外来小手術、白内障手術、緑内障手術、外眼部疾患手術技術の習得です。ただし、指導医の管理のもとで行い、平易な症例から順に本人の到達度に合わせてステップアップします。後期研修の間に、最低3回以上の学会発表および最低1編の原著論文の発表を行うようにします。

後期研修中は、年に1度以上教授とスタッフ、後期研修医の間で話し合いを行い、本人の希望、適性にあわせた柔軟なプログラム下で行います。

### 研修目標

眼科一般に関して幅広く高度な診療技術を習得する。

医師としてあるべき態度を身に付ける。

眼科専門医を取得する。

### 研修可能技能

各種手術手技（白内障手術、斜視手術、硝子体手術、緑内障手術、腫瘍切除術、翼状片手術など）

### 取得できる専門医資格技能

日本眼科学会専門医

日本眼科学会指導医      など



### 特 徴

個人の希望に沿ったプログラムを作成します。途中で大学院進学することも可能ですし、国内留学、国外留学も可能です。留学先としては米国ロサンゼルス南カリフォルニア大学、英国ロンドンモアフィールド病院、カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校などに医局員が留学しています。

### 研修参加条件

卒後臨床研修修了者

### 研修施設

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、垂水中央病院、今村病院分院、九州厚生年金病院（北九州市）  
など

### 研修期間

4年（専門医受験に6年以上の臨床経験が必要であるため）

### 研修プログラム

#### 後期研修プログラムのスケジュール概要

##### ○年間予定

4月            オリエンテーション

病棟外来診療を指導スタッフについて見学する。

5月～6月      病棟副主治医として、診療に当たる。後期研修医対象の講義（計10回）を受ける。所見のとり方（第1段階）\*を習得する。

7月～9月      病棟主治医として患者を受け持つ。手術の準備・介助が出来るようにする。研修者の数にあわせて、順に専門外来で研修を始める。1年間かけて全ての外来を経験する。

10月～12月   担当患者の処置、所見のとり方（第2段階）\*\*ができるようになる。

1月～3月      病棟主治医として受け持った患者の手術（一部）をスタッフの管理下で行う。所見のとり方の習得状況を評価する。2月までに、次年度の研修スケジュールを作成する。

\*、\*\*：所見のとり方は鹿児島大学眼科で定めた分類による。年間1回以上、学会発表を義務付ける。月2度（第1、3水・木曜日には、大学医局においてウェットラボを行う）

2年度以降は、本人の到達度と希望にあわせてスケジュールを作成するが、基本的には初年度のスケジュールをステップアップしたものとする。

##### ○月間プログラム

年間の主要行事（日本眼科学会総会：専門別学会：鹿児島県眼科医会：臨床眼科学会総会：眼手術学会：ARVO：AAO）開催に合わせて、各月のスケジュールを前月の第1週までに発表するので、それに合わせて対応する。なお、鹿児島大学眼科は、定期的離島診療を行うので、それに対応したスケジュール作成が行われていることを特記する。



## 研修プログラム

### ○週間プログラム

- 月曜日 午前外来・午後手術（一部） 5時30分から医局会  
 火曜日 手術+専門外来（内科的網膜、小児眼科、神経眼科）  
 水曜日 終日外来（ぶどう膜、角膜）夜：研修医対象の講義  
 夜は病棟医を対象とした抄読会を毎週開催  
 木曜日 手術+専門外来（内科的網膜、緑内障、神経眼科）  
 午前8時から網膜硝子体疾患専門医による抄読会（希望者のみ）  
 金曜日 終日外来（専門外来：外眼部）  
 上記は原則であり、眼科は急患手術が多いため、それにより適宜内容は変更される。

### 眼科研修医の研修成果評価方法

研修成果の評価は、研修医本人の研修効果を上げるために不可欠なものであるばかりではなく、研修機関の質の向上に不可欠であるので、積極的に行う。本評価は、上記の目的のためだけに用いられ、研修医相互の比較や人事考査に用いられることはない。個人情報保護に十分に注意をして、原則として公表する。

#### 1 評価期間

初年度は4ヶ月ごとに中間評価を行い、年度末には1年間の総合評価を行う。

2年目以降は、大学内勤務の者は、半年毎に評価を行う。関連病院出張者は、原則として半年毎に評価を行うが、時期は個々の病院による事情を考慮する。

#### 2 評価方法

研修期間前に、評価期間の到達目標項目を掲げ、5段階で表す自己評価を行う。

その評価について、担当スタッフ、機関の責任者ならびに本人との間で、検討を行う。

以上を参考にして、研修の問題点などを明らかにして次の段階の評価基準を作成する。

#### 3 評価の活用ならびに公表

評価は研修医本人の研修成果の向上および研修機関のプログラムの改善の目的でのみ使用される。結果は、研修機関責任者（教授）が、保管する。

個人の評価結果は公表しないが、研修者全員を平均した結果は、原則として公表する。

### 研修病院の症例実績

病院名 手術・症例	鹿児島 市立病院	垂水医療 センター	青雲病院	今村病院	厚生連病院
白内障手術	○	○	○	○	○
硝子体手術	○		○	○	○
眼瞼手術	○	○	○	○	○
斜視手術	○				
硝子体注射	○	○	○	○	○
網膜剥離	○			○	

### 現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	1	(0)	0
卒後4年目	1	(0)	1
卒後5年目	2	(0)	0

## プログラムの募集人員及び選考

- 【募集人員】 6名  
【選考】 面接など

## 研修と大学院の関係

希望により、卒後3年目以降に大学院に入学することができる。  
大学院在学中は必要に応じて学外および学内での臨床経験を積むことができる。  
国内外の留学も可能である。

## 処遇

大学病院の医員としての待遇

## 研修終了後の進路

鹿児島大学病院眼科で専門外来を受け持つ。あるいは関連病院の医長として勤務する。

## 指導医・専門医

- ・日本眼科学会専門医 32人
- ・日本眼科学会指導医 6人

## プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学病院 眼科  
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号  
TEL 099-275-5402  
E-mail : op@m2.kufm.kagoshima-u.ac.j

